

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000740		
法人名	株式会社プラティア		
事業所名	グループホームプラティア八戸ノ里		
所在地	東大阪市瓜生堂3丁目9-19		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	令和2年9月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和2年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>次の5点をスローガンとして支援にあたっています。</p> <p>①ご入居様が主人公:日常生活はご本人様の意向を大切に、私たちは不自由なところを補うサポート役です。</p> <p>②尊厳を保つ:プライバシーを最大限に確保し、どのような状態になられても尊敬する人生の先輩として節度ある対応に努めます。</p> <p>③いきいきとした生活:日常の生活の中で役割を持つことにより、一人ひとりの可能性を引き出し、いきいきとした生活を送っていただきます。</p> <p>④認知症の進行を防止:趣味や外出、家事などをその人が出来る範囲で行うことにより、認知症の進行を防止します。</p> <p>⑤地域社会と共に:地域に開かれた施設として、地域の皆様に支えられながら共に歩みます。</p>
---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>散歩・買い物等日常生活に便利な、静かな住宅地にある。地域の祭り・食事会・カラオケ等への参加、ボランティアの来訪等地域交流に努め、「寄り添い介護」を活用して外出・外食等個別の希望に沿った外出支援に取り組んでいる。(現在は休止)手作りの食事、利用者の希望に沿った「フリー食の日」、季節に応じた毎月の行事、家事や作品づくりへの参加等、利用者が楽しみや役割を持って生活できるように支援している。職員の意見・提案を集約できる工夫があり、必要時には都度フロア会議で検討し、利用者の現状に即した個別ケアにつなげている。通常は家族の面会が多いが、現在は「近況報告書」や運営推進会議録の郵送、ブログ、ライン電話等で、家族に利用者の状況が伝えられるように努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員は、入社後新人研修により説明を受ける。又既存スタッフは、(玄関の見えやすい場所に掲示している)、出勤時に一読してから勤務に就き、理念を実践に繋げてもらうようにしている。	法人共通の運営理念と5項目の基本方針を共有し、基本方針に「地域社会と共に」という地域密着型サービスとしての意義を盛り込んでいる。入職時の研修で説明し、玄関と各フロアの事務室に掲示して出勤時に必ず一読することとし、共有と意識付けを図っている。毎月の役職者会議で検討する際には理念・基本方針に立ち戻り、議事録の供覧により職員にも周知し、日々の支援の中で実践できるように取り組んでいる。また、人事考課の自己評価に接遇などの項目を入れ、理念・基本方針の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一度、運営推進会議を開催。秋祭りのイベント時は入居者様のご家族様や近隣の方々の参加がある。	自治会に加入し、秋祭りの協賛を行ったり、マスクの提供を受ける等、協力関係を築いている。通常は、地域包括支援センター主催の食事会やカラオケに定期的に参加し交流している。(現在は休止)現在は、散歩・買い物・理美容等で利用者が地域に出かけることは控えているが、事業所としては買い物等で地域資源を活用している。通常は楽器演奏・綿菓子などのボランティアの来訪があるが、現在は傾聴ボランティアの来訪のみとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターヴェルディ八戸ノ里主催の地域の方との食事会やカラオケにも定期的に参加している。		

グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見、要望助言等は積極的に取り入れている。自治会長、他GH、からの参加もあり情報交換がなされている。	利用者・家族・地域包括支援センター職員・地域代表(自治会長)・知見者(他事業所職員)・事業所職員を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。毎回全家族に開催案内を送付し、欠席の家族のために意見の記入欄を設けている。会議では資料を配布し、利用者状況、事故・行事・各フロアの状況、研修等事業所の取り組み、今後の予定等を事業所から報告している。利用者・家族の意見、地域の情報、他事業所の取り組み等を、サービスや運営に反映できるよう取組んでいる。令和2年1月まで開催し、3月以降は開催は休止し、報告資料を全利用者の家族と構成メンバーに郵送し利用者・事業所の状況を伝えている。会議録は玄関に設置して公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず地域包括支援センターの職員にも参加して頂いている。又弊社のブログにて皆様の様子を随時アップして、一般の方々にも閲覧して頂けるようにしている。	運営推進会議開催時には、地域包括支援センター職員の参加があり、利用者状況や事業所の取り組みを伝え連携している。管理者が「東大阪市介護保険事業者連絡協議会」の副座長を務め、市の職員の参加もあり連携している。福祉的支援を必要とする利用者も受け入れ、市の福祉事務所と協働して支援に取り組んでいる。市からのメールによる情報や通知を運営に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は毎年行っている。拘束は身体的なものに留まらず、言葉等での拘束もあることを確認し、日々の拘束のないケアの実践に繋げている。H30年4月より身体的拘束等適正化の為の検討委員会を設置し3か月に1度会議を開き、議事録を作成している。	「身体拘束廃止の指針」を整備し、玄関にも掲示し、身体拘束を行わないケアを実践している。「身体拘束等検討委員会」を3ヶ月に1回開催し、適正化に向けた検討を行っている。委員会の内容は、議事録を供覧し職員の周知を図っている。年間研修計画に沿って「身体拘束・スピーチロック」の研修を、役職会議の中で実施している。役職会議に参加しない職員には、資料の供覧により周知を図っている。玄関の開錠には操作が必要であるが、階段・エレベーターの使用、館内の移動は自由にでき、外出の意向があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように努めている。	

グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても研修に組み入れ、虐待防止の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修の議題に取り上げ、各スタッフ理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設けて説明を行い、入居者様や家族様等の不安や疑問を取り除き同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一度、担当スタッフが「近頃のご様子」を書面にして報告している。面会も多く利用者様だけでなく家族様の意見も多く反映されている。	利用者の意見・要望は、日々のコミュニケーションの中で把握に努めている。通常は家族の面会が多く、また、運営推進会議にも参加があり、家族からの意見・要望を聴く機会としている。現在は面会に制限がある状況であるが、個別の「近頃のご様子」(2ヶ月に1回)、運営推進会議報告書、ブログ、ライン電話、電話等で、利用者や事業所の状況を伝え、家族から意見や要望が出やすいように努めている。把握した利用者・家族の意見や要望等は主に業務日誌に記録し、内容に応じてフロア会議等で検討し、支援や介護計画に反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に3回個人面談を行い意見の徴収に努めている。日頃の業務内におけるカンファレンスで自由な意見交換、提案を出し合い議論している。役職会議において1か月の総括を行い次月に繋げるようにしている。	各フロアで随時フロア会議(ミニカンファレンス)を実施し、フロア内の職員が会議録に意見を追記して、職員の意見・提案を集約する仕組みがある。フロア会議の内容を役職会議(月に1回実施)の中で整理し、また、役職者間の検討事項についても役職会議で意見・情報交換を行い、ケア・サービス・業務・運営に反映している。役職会議の内容は、議事録の供覧により職員に周知を図っている。年3回エリアマネジャーと管理者が職員と個別面談を行い、意見・提案を個別に聴く機会も設けている。管理者会議で、職員の意見や提案を代表者に伝える機会もある。	

グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力主義賃金体系により、各自の努力が給与に反映するようになっている。又、外部の研修を受講する場合、法人が受講料の一部を負担及び資格取得支援制度等もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記の能力主義賃金体系は職能要件書というものを基に、取締役、管理者、職員本人が面談の上記入しているの、力量把握に有益である。事業所では随時研修があり、法人内での研修も実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社のEエリアのGHのホーム長は持ち回りで、東大阪市介護保険事業者連絡協議会（居宅系地域密着型サービス事業者部会）の副座長を務めており、勉強会、交流会等へは毎回参加し、同業者との交流の機会には事欠かない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接において、本人、家族様等から十分意見を聞き、それまでに関りのあったケアマネや介護ワーカー、相談員等にも直接会ってお話を伺い、入居者様を多方面から知ることが出来るように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始の段階で、地域交流室や本人様の個室で、意思を表明しやすいよう配慮しながら、傾聴・受容・共感するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くのニーズの中から、優先順位の高いものから実施するようしており、他のサービスが必要なら即その他事業所に連絡を取る便宜も図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を共同生活を営むものとして位置づけ、入居者様が出来ることがあれば、共に行い、食事と同じものを一緒に楽しく頂いている。		

グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時家族様と連絡を取り合っている他、本人様と家族様が疎遠にならないよう来訪をご負担にならない範囲で促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの場所や人との邂逅(カイクウ)ができるよう、個別の外出支援もしている。	馴染みの人や場所についての情報は、主に入居後の会話の中で把握し介護記録に記録している。通常は、家族の面会が多く、その他にも、親類・知人の来訪もあり、お茶を出し居室でゆっくり過ごせるように配慮し関係継続を支援している。また、馴染みの店の利用を支援したり、「寄り添い介護」を活用し、馴染みの場所への個別の外出支援も行っている。現在は面会・外出を控え、家族とはライン電話・電話・接触しない面会など工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションが円滑になるように、職員は随時仲介役になっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族様や退去先等と連絡を取り、随時経過を聞きつつ、相談を受ける事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを整備し直し、現状の意見を取り入れるようにしている。	入居時に把握した利用者の思いや意向は「フェイスシート」の「生活上の希望」欄に記録している。日々のコミュニケーションの中で把握した意向は、介護記録に記録し、内容に応じて、随時のフロア会議で検討している。6ヶ月毎の介護計画の見直し時に再アセスメントを行い、定期的に意向を確認している。把握した思いや意向は、日々の支援や介護計画、内容に応じて「寄り添い介護」等に反映し対応に努めている。思いや意向の把握が困難な場合は、問いかけの方法を工夫し、表情や反応に留意し、また、家族からの情報や意見を参考に等、把握に努めている。	

グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様はもとより、家族様や関わりのあった前ケアマネ等からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントやカンファレンス、申し送りを密にすることで、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様の意見要望をベースに、主治医・看護師・鍼灸の先生等にも相談しながらチームケアを進めている。	「フェイスシート」「相談台帳」等をもとに初回の介護計画を作成している。各フロアにファイルを設置して、介護計画の周知を図っている。サービスの実施状況は、タブレットの各種チェック表や「介護記録」に記録している。状況の変化や検討事項があれば、随時フロア会議(ミニカンファレンス)で検討し、適宜の介護計画の見直しにつなげている。定期的には、6カ月毎に介護計画を見直している。見直しの際は、「モニタリングシート」でモニタリングを行い、「現在の状況」で再アセスメントし、サービス担当者会議を開催している。議事録には、利用者・家族の意向や、主治医等関係者の意見や助言も記載し、介護計画に反映している。	介護計画に基づいたサービスの実施が記録から明確になり、モニタリングの根拠となるような記録の工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の介護電子記録に気付きや変化等を入力し、それを題材にカンファレンス等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	形にとらわれない、社会資源の有効活用を心掛けている。自立支援医療制度を利用しデイケアに通われている方もおられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報誌や回覧板、フリーペーパー等に目配りし、地域資源の把握に努め、利用できるものは活用できるようにしている。		

グループホームプラティア八戸ノ里

評価項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30 (11)	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当グループホームには契約による主治医がいるが、家族等の希望等があれば、他のクリニック等への変更にも応じている。また、内科以外の受診(通院)の支援も行っている。</p>	<p>入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。内科・歯科・眼科の往診と、訪問リハビリ・訪問看護を受けられる体制が整備されている。通院による受診にも職員が同行し、心身の状況や生活の様子を伝え受診結果を把握している。内科往診・訪問看護については「訪問看護記録」に、眼科・歯科については「眼科記録」「歯科ノート」に記録している。通院については、「介護記録」に記録している。</p>	
31	<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師とは24時間の連絡体制が確立しており、随時報告・相談等をしている。必要に応じて緊急にホームへ足を運んでくれることもある。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は必ず介護サマリーを提供し、必要な情報を伝え情報交換している。</p>		
33 (12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針を明文化し、入居時に説明、同意も得ている。看取りでは提供医療機関の看護師と密に連携し対応するようにしている。</p>	<p>希望があり対応が可能であれば、看取り介護を行う方針である。契約時に「重度化・終末期に向けた指針」に沿って説明して同意を得、意向確認を行っている。近年、事例はないが、終末期を迎えた段階で主治医から説明があり、事業所から「看取りに関する指針」に沿って意向確認を行っている。事業所での看取りを希望された際は「看取り介護計画」を作成し、主治医・看護師と共に家族の意向に沿った支援に取り組み、経過は介護記録に記録している。年間研修計画に入れて、「看取り」研修を実施している。</p>	



グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やマニュアルをいつでも閲覧できるようにし、急変や事故発生時の対応・応用力がつかうように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者が防火管理者となり、消防計画を消防署に提出。年2回通報・避難・消火訓練を行っている。	年に2回、昼間想定・夜間想定で、可能な利用者は参加して、通報・消火・避難の総合訓練を行っている。概ね年に1回は消防署立ち合いがあり、指導や助言を受けている。多くの職員が参加できるようにシフト調整に努め、参加できなかった職員にはスケジュールと報告書を回覧し周知を図っている。事務所に「東大阪市大雨災害に備えて」を掲示し、災害時対応の周知を図っている。法人から配布された水・食料等と、事業所で準備したカセットコンロ・懐中電灯等を、備蓄している。	今後は、地域との協力関係の構築に取り組まれることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針の中で尊厳をうたっており、また、研修でも、高齢者の人権やプライバシーの確保等を取り上げている。	年間研修計画に入れて、「接遇」「個人情報保護・プライバシー保護」「認知症及び認知症ケア」等についての研修を実施し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について理解が深められるよう取り組んでいる。年3回の人事考課の自己評価に接遇などの項目を入れ、意識向上に努めている。個人記録類は事務室の鍵のかかるロッカーに保管し、写真の掲示や掲載については入居時の「確認書」で意向確認を行い、個人情報の適切な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いを表明しやすいような言葉かけや、自己決定を促すような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当法人は何よりも「入居者本位」を第一に考えている。		

グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの方の協力も得て、身だしなみやおしゃれの支援に力を注いでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好に応じたものを提供するようにし、出前や外食も取り入れている。又、入居者様と職員が共に食事をするのはもちろん、できる方には、準備や後片付けも一緒にして頂いている	朝食は、職員が献立を考えて調理している。昼食・夕食は、委託業者から献立と食材が届き、各フロアで手作りの食事を提供している。利用者の状況に応じた食事形態や、嗜好に応じたアレンジ等にも対応している。可能な利用者には、野菜の下準備や食器洗い等に参加できるように支援している。月に1回程度「フリー食」の日を設け、利用者の希望の献立で調理したり、出前をとる等の機会を設けている。職員も同じ食事で食卓を囲み、家庭的な雰囲気ですることができるように配慮している。通常は、寄り添い介護を活用して、個別に外食に出かける機会も設けている。(現在は、外食は行ってない。)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量を毎日記録し、一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一度の歯科往診で診察を受ける他、居宅療養管理指導も受けており、又、自身でできない方には介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄の記録を残し、個々の排泄パターンを把握している。自身で出来ない方には、誘導、あるいは介助にてトイレで排泄できるように支援している。	タブレットの排泄チェックで利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけ・誘導・介助を行い、トイレでの排泄・排泄の自立に向けて支援している。利用者に状況の変化や課題があれば、随時フロア会議(ミニカンファレンス)を行い、現状に即した介助方法や排泄用品を検討している。声かけ・ドアの開閉・見守りの工夫など、プライバシーや羞恥心への配慮を行っている。	

グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつ等の内容や形態に配慮することはもちろん、主治医に相談し適宜その方に合った薬を処方してもらっている。毎日テレビ体操等も取り入れ身体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間等は固定せずに、気分や希望等に応じて入浴して頂く。入浴を嫌がる方には、時間を掛けてお話して入浴に繋げたり、それでも断られる時は、清拭や足浴等に切り替えている。	週2回以上の入浴を基本とし、利用者の体調・気分・希望に応じて入浴できるように支援している。曜日・時間帯を固定せず、入浴を好まない利用者には声かけやタイミングを工夫し、タブレットの入浴チェックで確認しながら、入浴機会が確保できるよう取り組んでいる。利用者に状況の変化や課題があれば随時フロア会議(ミニカンファレンス)を行い、現状に即した介助方法を検討している。2人介助・シャワー浴・足浴等も取り入れ、安全に快適に保清できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や状況等に応じて、安心して安全に休息、あるいは睡眠をとって頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	電子記録タブレットに、お薬の変更、追加等を含め全ての服薬情報が記されていて全スタッフが目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持つておられる力を発現できるよう、又、嗜好や楽しみが実現できるよう、生活歴を掘り下げ、希望等を聞き、それらに添ったきめ細やかな支援を行っている。		

グループホームプラティア八戸ノ里

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい時期には日常的に散歩に出かけている。又個別の馴染みの場所や行きたくても普段行けない場所等にも、業務内容や職員の人員をやりくりし、時には家族様等の協力も得て、出掛けられるよう支援している。	通常は、気候の良い時期には、利用者の希望に応じて、近隣への散歩に日常的に出かけている。買い物・理美容等の個別の外出支援も行っている。初詣や花見には多くの利用者が参加できるように工夫し、秋の遠足は法人内のバスを利用してフロアごとに参加できるように企画している。外食や思い出の場所・希望の場所への個別の外出支援は、「寄り添い介護」を活用して行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にないと不安を感じられる入居者様には、ご家族様の了承の下、少額の現金を所持して頂ける体制にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという入居者様の希望には随時応じている。手紙についても、代行での切手や便箋等の購入や投函をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビング等には、入居者様の手による、季節が感じられる切り絵や絵画、習字、写真等を掲示している。	各フロアの共用空間は、木調で温かみがあり、テーブル席・ソファ・一人掛け椅子を設置し、利用者が思い思いの場所でくつろげるように配慮している。1階には庭、2階にはベランダもあり、採光もよい。利用者と一緒に制作した季節感のある作品・行事の写真・書道等が飾られ、季節感や家庭的な雰囲気が感じられる。対面式のキッチンから調理の音や匂いが感じられ、調理・掃除・洗濯等の家事に参加できるよう支援し、生活感を大切にしている。体操・歌・制作・家事参加など、利用者が共用空間で活動できる機会作りに努めている。	

グループホームプラティア八戸ノ里

評価 項目	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛けの椅子や多人数用のソファを、リビングに置いて、思い通りに過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、在宅生活の継続が図られるよう家具等出来るだけ馴染みの物を持参して頂くようにしている。	居室に、クロゼット・洗面台・ベッドが設置されている。たんす・テレビ・たな・家族の写真・人形など、使い慣れたもの・馴染みのものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるように配慮されている。動線を考慮して家具の配置を工夫したり、居室前に写真等好みのものを装飾し部屋間違いを防ぐなど、安全に自立した生活が継続できるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、諸々の掲示も分かりやすさを旨としたものとしている。		